

「学べる自分」を取り戻す

魔法スピンオフ事例～50代の挑戦～

意東小学校 井上賞子

Sさんのこと

- 知的な遅れはない
- 重篤なディスレクシアとの診断が出ている
- 不注意も過度に高い
- 43歳まで、自分の困難を知らなかった。
- 高校を3ヶ月で飛び出し、職を転々としながら生きてきた。
- ディスレクシアだと知り、多くの葛藤の末、通信制の大学への進学を果たす。
- 現在、ICTを活用しながら、学んだり働いたりしている。



Sさんのこと

○子ども時代

- 新しいことを知るのは好きだった
- 先生が話すことはみんなわかった
- ひらがなですら、すらすらは読めなかった
- 文字の読み方を必死で思い出していると、内容がわからなくなる
- みんなが簡単にできることができない自分は どうしようもない「ばか」なんだと思ってた
- こっそりたくさんがんばった。でも、できない。かっこ悪くて「がんばった」と言えなかった。



Sさんのこと

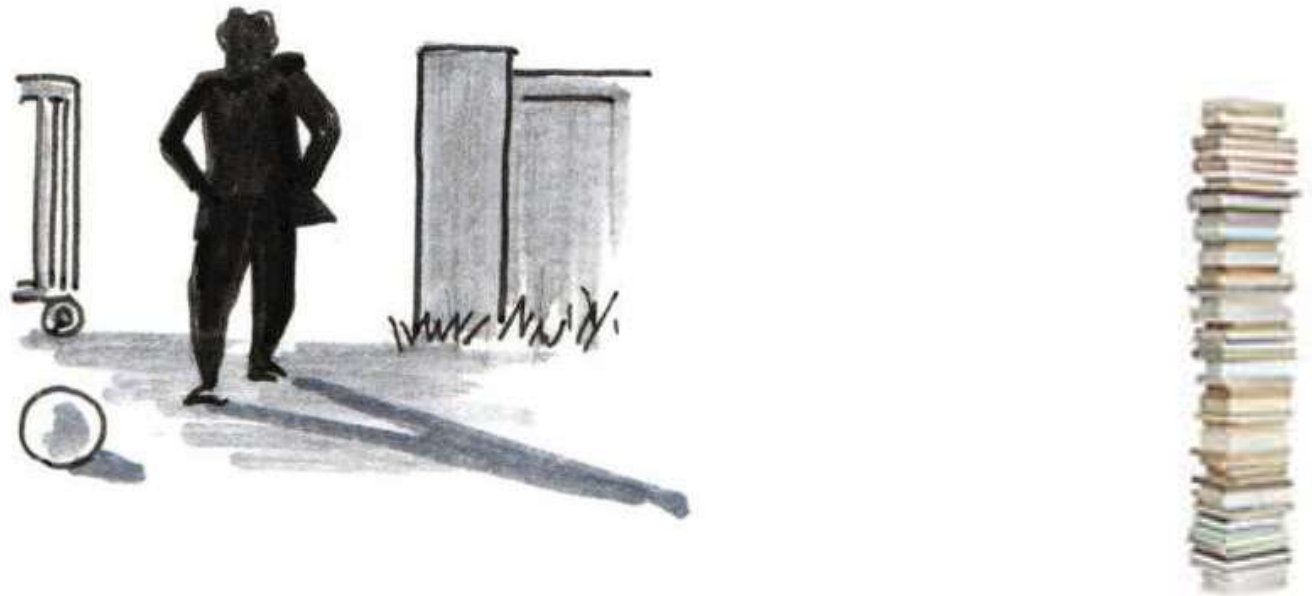
6年生の時の先生が、読み上げテストをしてくれた。聞けばすべてわかるから95点取れた。

でも、他に誰もそんなことはしていない。先生に読んでもらうのは「ずるいこと」だと思った。



Sさんのこと

- 中学では荒れることで、「恥をかく」時間から逃げた
- スポーツ推薦で入った高校は、「学び」がないことに絶望していけなくなった
- 16歳になる前から、年齢を偽って働いた



Sさんのこと

「学校から飛び出せば、もう読み書きをしなくていい」と思ったのに。。

「読み・書き」はどこまでもついてきた。
バシれば、そこにいられない。職を転々としていくことになる。



「読めない」「書けない」を隠すために
始まった、ICTの活用



「隠すため」のICT

- 鞆のように大きな携帯電話をすぐ購入
- その場で電話をかけてメモを取らせる

- やっていることは「代筆」だが、「書けない」ことをバシバシにごまかせる

- 周囲には「書いている暇がない」と吹聴

- 周囲からは「景気がいいなあ」と評価される



「隠すため」のICT

- ワープロの登場 → 「これで社会人になれる」
- パソコンの登場 → 「コピペでごまかせる」
- スマホの登場 → 「予測変換があれば、メールも書ける」



隠すためのICT

- みんなが携帯電話で漢字を調べるようになる。
「誰もがやってること」とわかっているけど、決して人前で自分ではできなかった。
- それをしたら必死で隠してきた「読めない・書けない」ことがバレてしまう気がして怖かった。
- そんなこともできないとバレたら、誰にも信用されない。

仕事ももらえない。

隠し続けるしか

なかった。



ICTは助けてくれた。
でも隠し続ける虚しさが残った

大きな転機



ディスレクシアだと知って

- たくさんの疑問が繋がっていった。
- 救われた気持ちもあったが、あきらめてきたことが多すぎて受け入れるのには時間がかかった。
- 勉強もしたかった、大学にも行きたかった。学ぶことのスタートラインに立ちたかった。

ディスレシア



ディスレクシアだと知って

- 「正しく読めなくても、自分には意味が分かる。それでいいんだ」と思えるようになってから、資格試験に挑戦
- 選択肢のある試験を選んで受験→合格
- 「俺はアホやなかったんや」



「読みたいものを読み」
「書きたいことを書く」ための
ICTの活用へ



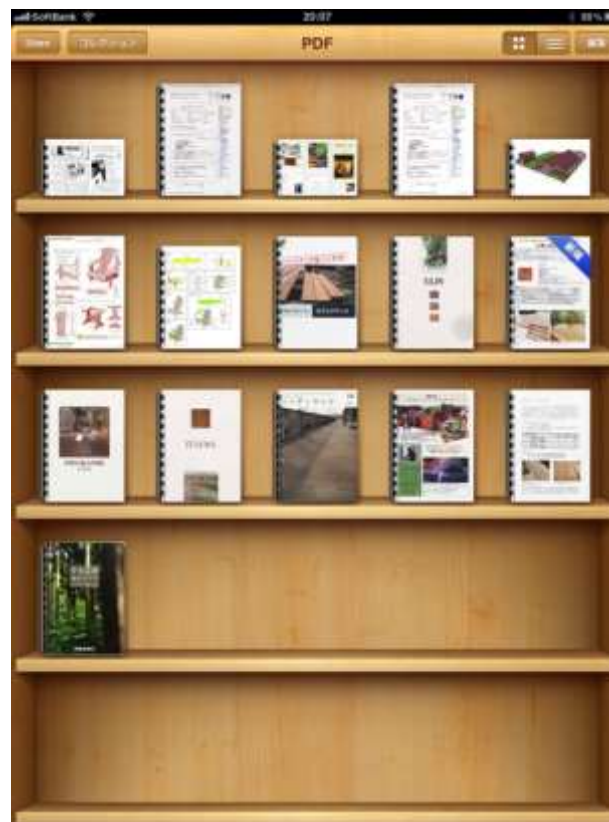
「読みたいものを読むため」のICT



自炊して、PDFにし、
iBooksで読み上げ
不自然で機械的な声でも、かなり助けになる



imageFORMULA DR-C125
両面のスキャンがラクラク



「読みたいものを読むため」のICT

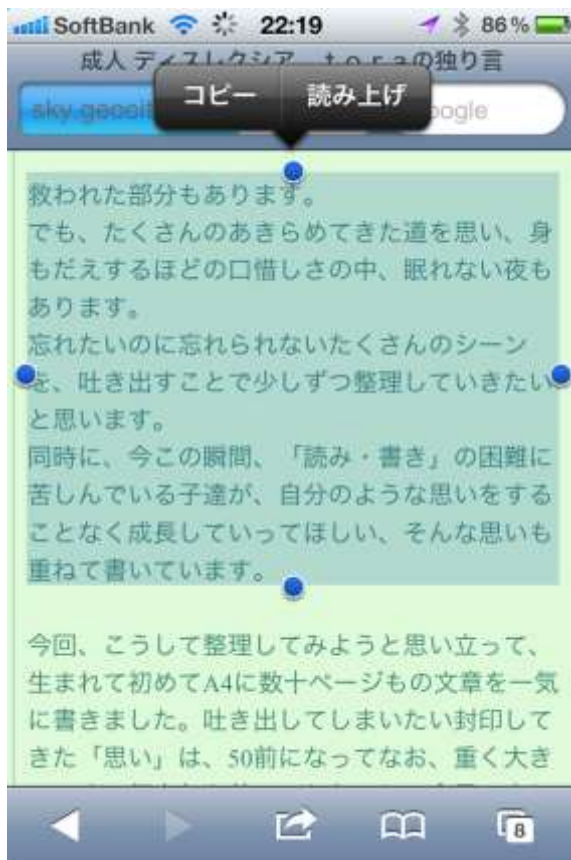
読みあげてもらえば、意味がスムーズに入ってくる。
さらに文字がそこにあると、より理解がしやすい。



パソコンなら、
一太郎に入っている読み
あげソフト「詠太2」を使っ
ています。
かなりなめらかで聞きやす
いので、インターネットの記
事を読むときに、重宝して
います。



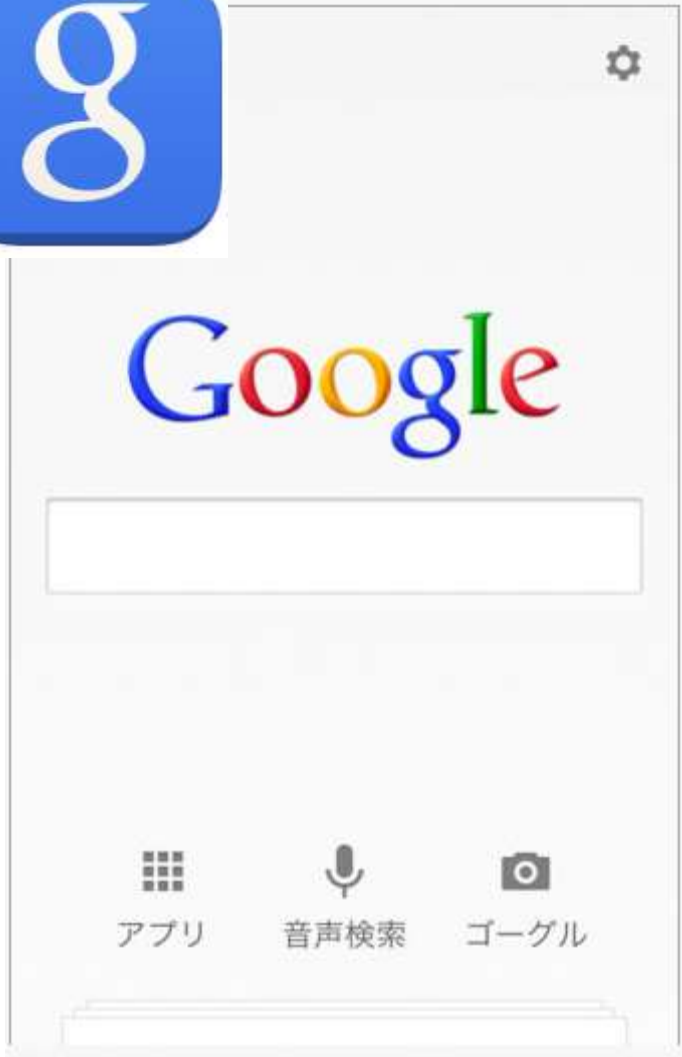
「読みたいものを読むため」のICT



「選択読み上げ」を使えば、長い文章もスムーズに頭に入ってくる。



「書きたいことを書くため」のICT



Siri。
あなたの望み、
かなえます。

メッセージを送る。会議のスケジュールを設定する。電話をかける。Siriを使えば、あなたの声でいろいろなことができるようになります。いつもと同じ自然な話し方でSiriに話しかけて、したいことを伝えましょう。Siriはあなたの言葉だけでなく、その意味も理解し、音声で返事もします。とても簡単な方法で、驚くほどたくさんのことができるSiri。新しい使い方がどんどん見つかるでしょう。

あれば



「書きたいことを書くため」のICT

- 「書かなきゃいけないから」ではなく、「書きたいこと」を書く。
- SNSでの発信、受信、つながりを楽しめるように。
- 「写真」という表現との出会い。
- 発信の場があることが、継続へのモチベーションへ
- 「予測変換は味方!」



ICTの活用が支えた変化

- 代替え手段を持って「読むこと」「書くこと」の機会が格段に増えた。

「日常」になっていった

- 「書く力」「読む力」そのものが向上
- 「書くことで発散」する場面も

困難以上に「学ぶ機会」を失って来たことが大きかったと感じている。

子ども達への指導と通じる部分

今までは・・・

Aができた



Bに進もう

Aに困難がある子は、いつまでもたってもBに進めない

「いつまでもたってもできない自分」を感じてしまう

- 意欲の減退
- 自己評価の低下



たとえば

Aが困難

でも・・・



Aを補いBへ



学習機会が増える中で
Aも向上

「できる自分」を感じる

- 意欲の継続
- 機会の保障



「隠すためのICT」 →
「自分を生かすためのICT」へ

同じようにできないから使う



自分の能力を生かすために使う

自信と誇りが、活用へのモチベーションになっている



挑戦と挫折

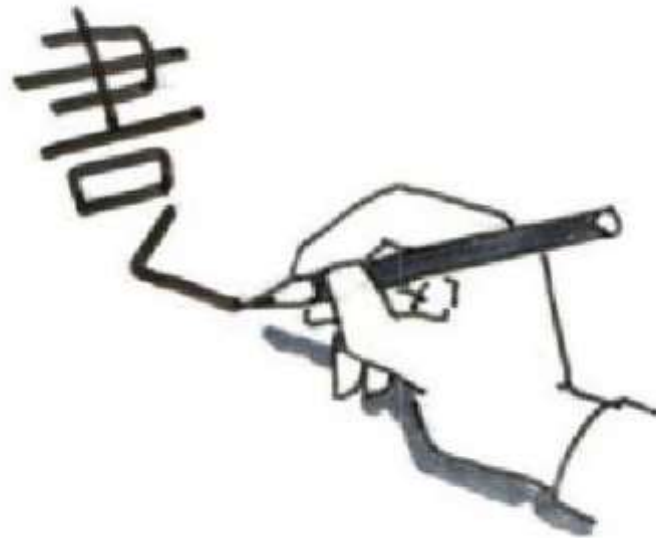
- あきらめていた建築関係の資格取得を目指す
- 長く携わった分野の内容であり、内容はよくわかっていた
- 5択という出題形式だったので、難易度が高い問題であっても正答できる自信もあった
- しかし、中卒のため、「予備試験」を受ける必要があった
- 「予備試験」は記述式
- ディスレクシアという障害があること、必要があれば診断書も提出できることを伝え、パソコンで解答させてほしいと要望をメールで送信
- 返信すらこなかった



挑戦と挫折

- わかっているのに
- できるのに
- 「書けない」ことでスタートラインに立てない

くやしさとやるせなさばかりがつのった



諦めていた夢を取り戻す
～大学への挑戦～



新しい挑戦

- ネットでサイバー大学のことを知る
「自分も大学生になれるかもしれない」
「インターネットを通じてなら学べるかもしれない」

サイバー大学の内容は、Sさんが本当に学びたいものですか？
「大学ならなんでもいい」では、続かないと思いますよ。



「本当は、芸術系の勉強がしたい」
「でも、普通の大学には中卒の自分はいれない」



特修生という制度がありますよ。



新しい挑戦

○特修生とは

- 何らかの理由で高校に行けなかった人、中退してしまった人たちが「高卒認定試験を受けずに大学に入学できる制度」
- 特修生の期間に規定の単位を取得すれば、正科生としてその大学の大学生になれる
- 卒業すれば、正式な大学卒業資格を取得できる

「大阪芸術短期大学の通信課程に特修生の制度がある!」

「ここに行きたい!!」



新しい挑戦

- 入学前の相談
 - 学ぶための配慮が受けられるのか？
「レポートや試験をパソコンで受けてたい」
- 大学側の回答
 - 今まで読み書きの困難への支援を行った実績はない
 - しかし、**そうすれば学べるというのであれば、
認めます**

子ども達の進む先は、こんなに柔軟



当初のねらい

- 苦手さを補い、学べる前提の状態を支える
- 自分に適した学び方を活用し、課題解決の方法を広げる



やっと「勉強したかったこと」を学べるスタートラインに立ったSさん。しかし、「学ぶこと」そのものの空白期間は長く、日常生活で親しんできたICTを「学び方」へ生かしていくための支えが必要だと考えた。



Sさんの学びを支えるために活用したICT

①「イメージ化」を支えるツールとして

→YouTube



②「読み」を支えるツールとして

→基本機能・・・選択読み上げ、辞書

→アプリ・・・タッチ&リード

もじかめ Scanner Pro 7



③「書き」を支えるツールとして

→メモ ※書くためにも②が必要



Sさんの学びを支えるために活用したICT

○正科生になるための条件

→特修生としての1年間で、一般教養を10単位以上とること

①レポートを提出

→受験資格を得る

②大学に行き、試験を受ける

→合格すれば単位認定



Sさんの学びを支えるために活用したICT

○レポートを書くために

- ①YouTubeで同じお題の講義を複数視聴
- ②レポート課題のキーワードをネットで検索
→動画があれば視聴
→説明ページがあれば読み上げ
- ③テキストを黙読
- ④提出する課題を決める
- ⑤そのテーマについてディスカッションする
- ⑥テンプレートに沿って入力していく
- ⑦読み上げさせて推敲する



テンプレートを活用

- ・テーマから、書くべき内容の項目を挙げる

Ex) 「成果と課題」なら「成果は・・・」「課題は・・・」

- ・できるだけ書きやすくするため、小見出しをつける

- ・書き始めの言葉を決める



「・・・について成果を述べなさい」

- ・「・・・」とは・・・(書き抜く)

- ・成果について、以下の2点について述べたい。

①・・・(書きぬく)

②・・・(書きぬく)

- ・まず①について述べる。・・・

- ・次に②について述べる。・・・

- ・今回のテーマについて考える中で・・・(自分の感想)

Sさんの学びを支えるために活用したICT

○試験を受けるために

- ・試験はあらかじめ示された複数の課題の中から2問出題される

①どの課題が出るのかわからないので、すべての課題に対して、テンプレートに沿って解答を作成

②繰り返し読み上げを聞いて、内容を覚える

③作成した解答を見ながら、入力していく
ことを繰り返す

④問題を見て、想起して解答する練習をする



スクーリングにむけて

大学へ、スクーリングに向けて要望書を提出

- ①メモや視写が困難なので、板書等を写真に撮らせてほしい
- ②テキストやプリントは、見ただけでは読めないものも多いため、OCRで読み込み音声化するために、タブレットや携帯での撮影を許可してほしい(イヤホーンを持ち込みます)
- ③小テストや感想の提出など、「書く」課題の際は、携帯で文章を作らせてほしい
- ④製作に入った際などは、ノイズキャンセラー付きのイヤホーンの使用を許可してほしい



スクーリングにむけて

大学へ、スクーリングに向けて要望書を提出

大学から、該当授業の先生に情報を共有

授業場面での支援

○シルクスクリーンの授業の場合

- 授業の流れの説明の際「ここはこのやり方で大丈夫?」と確認してくださった。
- 機器の使用は全てOK
「ディスレクシアについては今回初めて知ったけど、同様の支援を求めてきた学生はこれまでもいた。きっと同じ困難を抱えていたのだと思う。学べる方法を選んでいけばいい。」



スクーリング

- 書きとめる場面
- 集団で話し合う場面

書くことに困難があるということが、事前に共有されている



- 機器の利用のスムーズな受け入れ
- 「この字はこっちだよ」と、自然な声掛け

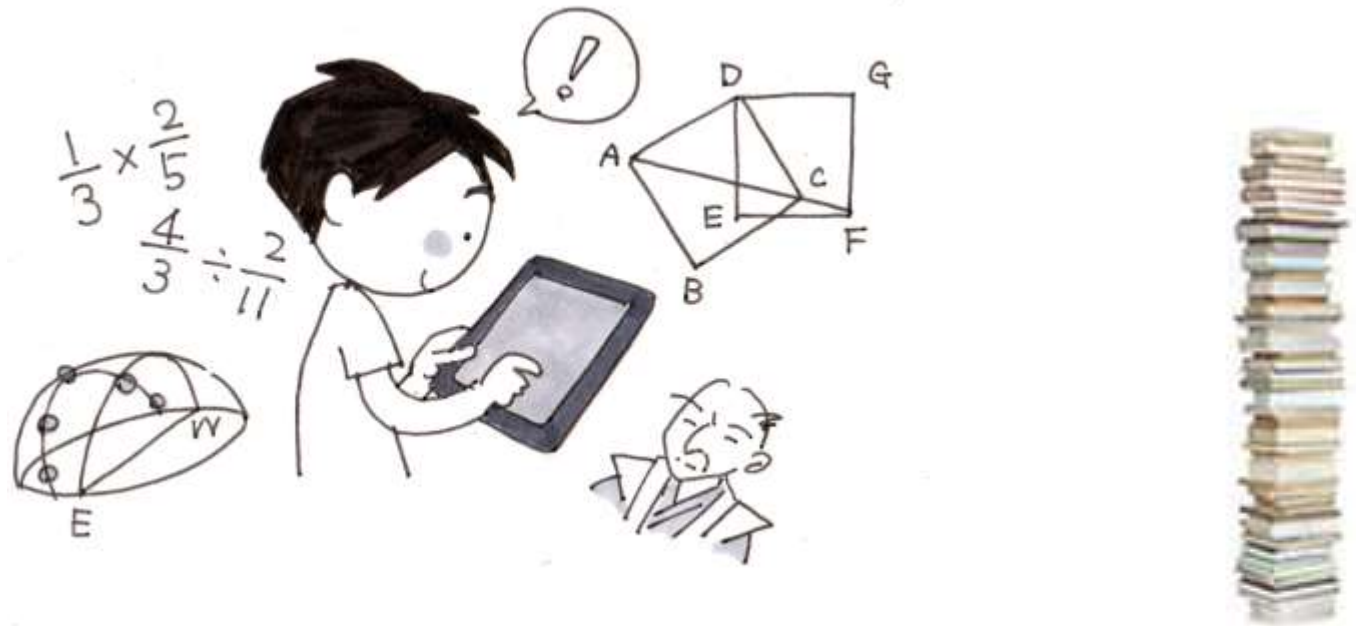
知ってもらふことで自然なサポートが受けられ、自分の学び方も尊重された。

「隠す」のではなく「知ってもらふ」ことが大事



Sさんからのメッセージ

- 「将来困るよ」と詰め寄る大人たちに言いたい。子ども達の行く先は、こんなにも柔軟で、科学の進歩はたくさんの方を可能にしている。
- 「将来困る」と今を追い詰めるのではなく、「今」を支えて、未来を開いてほしい。



成人ディスレクシア to toraの独り言



- 3月10日
- 前半部の記憶
- 往時の思い出
～小学校高学年
- 決ることと疑うことを
覚えた時
～小学校高学年
- 想像で文化すること
を知った
～中学時代
- 夢を覚えた時
～高校時代
- 「誰と比べていい子
ない」と確信した時
～社会の慣れ
- 成長と距離の中で
～社会と呼ばれて
- 「なぜ？」に文化された
自分
～卒業と独立
- ディスレクシアだと
知って
～療育と努力
- ディスレクシアだと
知って
～療育と発見
- 1冊の「読み・書き」
の特性
- 読めなくなった
自分へ
- 母への思い
- ある大人になる
で思うこと
- はなとこ
- 子どもの読解力
～4教科の読解
JAWW

4年前、自分がディスレクシアだと知り出した、
 数行れた部分もあります。
 でも、たくさんのおもちゃでできた道を思い、おもちゃとするほどの道しるべの中、見えない
 穴もあります。
 思っていたのに思えなかったくさんのシーンも、吐き出すことで少しずつ整理してい
 きたいと思います。
 同時に、その経験、「読み・書き」の困難に苦しんでいる子どもが、自分のように思
 えることなく成長して欲しい、そんな思いも書かれています。

今回、こうして整理してみようと思い立て、書き始めて初めて4冊に数十ページもの文章
 を一気に書き出した。吐き出してしまいたい対象にした「思い」は、次第になってま
 り、書くべきです。何十年も前のことなのに、今思い出せる思いが途切れないシーンも
 少ないありません。

思わなかった自分への理解もたくさんあります。でも、あの時は「そう思うしかない」と異
 議にも似た思いに駆られていたのも事実です。

もし自分の「読解」を知っていたら、教育の機会が保障されていたら、私はあそこまで思
 行を迷い込まずに大人になるのではないかと、何となくを覚悟してあそこまで行
 かないか、救ってほしいのは、その「私」ではなく、もがいていた子ども達の「私」です。

長い、とても長い間、自分が文章を書いたことも書こうと思ったことも、書かなくて
 いたことありませんでした。
 パソコンが普及した頃、「小学生の教科書」の原簿に「から」が載ったことで、思い
 文章を必要に応じて少しずつ打つことではできるようになっていきましたが、それでも、思
 を全て吐く文章に飽きていくことは、なかなか無い現実があります。
 今回、自分が書いたものを手に読んでほしい、さらに当時の様子を添えることで、彼らに
 文章としては高評価してもらいたいながら、二人でこのページを見ています。

成人ディスレクシア to toraの独り言

http://sky.geocities.jp/dyslexia_tora/



魔法のお手伝い

・魔法のプロジェクト内のコンテンツである「魔法のお手伝い」のページに、子ども向けの啓発絵本「サトルの話」が公開されています。ご参照下さい。



魔法のお手伝い

<http://maho-prj.org/otetsudai/>

魔法のお手伝い（魔法のプロジェクト）

障がいを持つ子どものためのモバイル端末活用事例研究



TOP アプリ紹介動画 動画クラブ 啓発絵本 教材館 魔法のプロジェクト

HOME >

特別支援教育「魔法のお手伝い」

「魔法のプロジェクト」は、学ぶことに困難のある子どもたちの学びを情報端末やデジタルツールで支援するためのプロジェクトです。東京大学先端科学技術研究センターとソフトバンクグループ、研究協力校によって進められています。

「魔法のお手伝い」は、これまでの魔法のプロジェクトの採択校による実践研究で得られた成果を一部の特権コンテンツとして公開することを目的としています。以下の動画コンテンツで特別支援教育を豊かにするお手伝いをしています。

魔法の動画クラブ

近年、有効性が認められ、多くの実践で活用されるようになってきた動画教材、より「見やすく」「わかりやすく」「かんたん」に作成するための方法を解説します。

魔法のアプリ紹介動画

「魔法のプロジェクト」採択校の教員が実際に使って効果があったアプリを動画で紹介します。

魔法の教材館

iPadを豊かに活用するための工夫からICTを用いないアナログ教材まで、様々な手作り教材とヒントを紹介します。

魔法の啓発絵本

「子どもたちのことをもっと知ってほしいー」「子どもたちの心の声を聞いてほしいー」

そんな思いで、お子さんから大人の方まで一緒にご覧いただける動画絵本を制作しました。

ご清聴ありがとうございました

